



市国際交流協会 姉妹都市のウクライナ避難民支援に寄付

ディーツヘルツタールの学校に通うウクライナ人の児童生徒の支援へ



(左から) アンドレア・リンク様 (ホルデルベルグ中学校長)、アンドレアス・トーマス市長、ハンス・ウェルナー・キルヒホフ様 (ホルデルベルグ学校支援協会 会長)、イローナ・ペーテ・ファッキナー様 (「橋の会」 副会長)、シュテファニー・マイ様 (ユング・シュティリング小学校長)、ローズマリー・アクトリース様 (「橋の会」 会計)

下野市国際交流協会は、姉妹都市であるドイツ共和国ディーツヘルツタールに避難しているウクライナ避難民を支援するため、令和4年5月に募金活動を行いました。集まった23万4,029円と協会の基金から繰り出したお金を合わせ、120万円をディーツヘルツタールの国際交流団体「橋の会」(Völkerverbindender Brückenkreis e.V.) に送りました。

この寄付金、総額8655.82ユーロは、「橋の会」の理事会からディーツヘルツタールのホルデルベルグ中学校とユング・シュティリング小学校の後援会に、ウクライナの子どもたちの人数に応じて渡されました。

<以下、ディーツヘルツタールの広報紙から抜粋>

ホルデルベルグ中学校は、ウクライナ人の生徒のために10台のiPadを購入しました。授業中、必要に応じて翻訳のために配布しています。また、学校の教科書や百科事典などの学校教材も購入しました。アンドレア・リンク校長は、「ウクライナの若者たちに代わり、日本の友人たちにこの素晴らしい支援への感謝を伝えたいです」と述べました。

ユング・シュティリング小学校では、Bookii リスニングペンという読み上げ機能のある教材の購入や、芸術鑑賞の劇場までの旅費などを、寄付金で賄いました。「ドイツ語の学習を促進する素晴らしい支援です」とシュテファニー・マイ校長は喜びを語りました。



ウクライナの生徒たちは、新しいiPadのおかげでコミュニケーションがしやすくなり、学習もはかどることを喜んでいました。前列左は、ウクライナの生徒たちを教えるジェシカ・ティルジャン先生。

しもつけクイズ

正解は②

詳しくは12ページをご覧ください。